

2月議会始まる 市民要求が反映される財政運営を

2月定例会議 2月22日～3月18日

2月22日に厚木市議会2月定例会議が始まり、22・23日の2日間、新年度予算を含む38議案（2面）が提案され、市長の市政方針の報告もありました。23日に行われた平成28年度一般会計予算についての主な質疑をお知らせします。

平成28年度厚木市一般会計予算
釘丸久子議員 企業立地条例における固定資産税の減免はどの位か。雇用奨励金の推移は。

財務部長 固定資産税については、平成28年度は平成23年度適用分が解除になり200万円入ってくる。28年度の減免は21社で1億1000万円。

産業振興部長 事業所の拡大、移転、新設があった。6000人超が市内で働き、新規雇用もあり、7000人超の従業者の増雇用奨励金の対象は25年度まで46人、26年度はなし。27年度は6件の立地、雇用奨励金は1人で28年度で交付する。

釘丸議員 雇用奨励金は正規雇用が対象で該当がほとんどいない。今回条例改正すれば正社員でなくても対象になる。非正規が増えていくなかで、本来の目的である正社員増に力を入れべきだ。まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）、人口ビジョン（案）では合計特殊出生率を2045年に2・07、5年後では1・42としているが、実現可能性は。

今週の活動から



忙中閑あり…議会前の忙しいときでしたが、梅見で一杯。梅ワインの試飲をしました。ほんのり甘くさわやかでした。



（釘丸久子議員）
県央八市議会議員合同研修会で海老名市文化会館へ。講師は薬師寺管主の山田法胤氏。演題は「こころを耕す」。心を耕さなければと思いつつも現実に追いつてられている議員生活。事実小説より奇なりの思いをすることが度々です。（栗山香代子議員）

3月の法律相談

3月22日（火）13時～

前日迄の連絡を！

政策部長 都市基盤整備、地方創生、地域包括ケア社会。補正と絡むが、国の交付金を使い若い世代の出会いと交流、定住・雇用促進などに向けて厚木の魅力を発信する。若い世代が議論をして事業の方向性を考えていくようにする。28年度はそれに取り組む。反省をしながら、4年間目標達成を目指すして取り組んでいく。

釘丸議員 人口減に対応はいろいろだ。案を見るとあと4年で3980人増。数値と現実をどう見て調整していくのか。現実をしっかりと見据えていかなければならない。

政策部長 総合計画は32年の到達で23万人を目指している。人口ビジョンは総合計画との整合性を図る。まち・ひと・しごとだけでなく開発インパクトも含めた数字。市街地再開発、子育て支援での効果、道路整備に伴う民間の開発等がある。その年度ごとの事業は効果があると考え取り組んでいる。検証してその結果を次の年度に活かしていく。

松下幸之助さんの経営論で、先ずやろうと思うことが大事だ。ある。そういう意識を持てないと、チャンスも見逃してしまう。精神論ではあるが、職員全員が到達するんだと思って取り組んでいく。

釘丸議員 法人市民税が増。27年度は予算の倍になったが財政調整基金に積み立てている。市民

2月 議会今後の予定

2月29日	(月)	本会議（一般質問）
3月1日	(火)	本会議（一般質問）
2日	(水)	本会議（一般質問）
4日	(金)	総務企画常任委員会
7日	(月)	市民福祉常任委員会
8日	(火)	環境教育常任委員会
9日	(水)	都市経済常任委員会
10日	(木)	常任委員会予備日
18日	(金)	議会運営委・本会議

9時開会です。
ぜひ傍聴においでください。

要求に反映できるような財政運営をしていかなければならない。

財務部長 経済状況が良くて税収が上がってきた時の配分の仕方。これから基盤整備、大型施設もあるだろう。市債を活用できないこともあり、そのためにも確保する。膨らむ社会保障関係の経費にも対応する。ハード・ソフト両面に有効に活用していくことが大切。

釘丸議員 自治体財政は単年度主義が基本。公共施設の老朽化、社会保障が上がるからため込んでいいの。いま住んでいる人にとって対応するかを考える必要がある。

財務部長 単年度主義は理解している。30年位前のように税収が右肩上がりなら単年度で使ってもいいが、今は経済状況が非常に不安定だ。サービスを始めても収入が入らないからやめるという事を防ぐためには、先を見越して財源確保し、激変緩和の対応ができるような姿勢も大切。